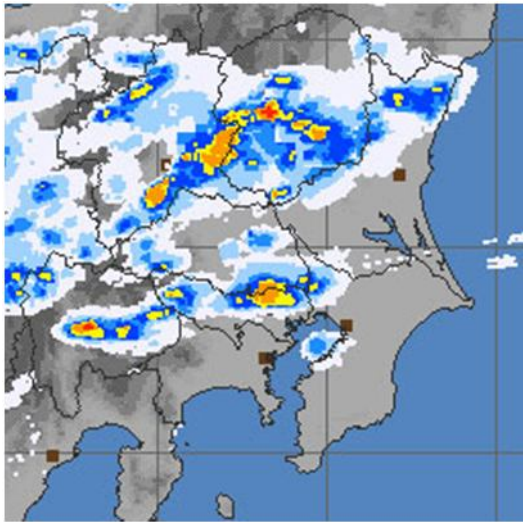


「大気の状態が不安定」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

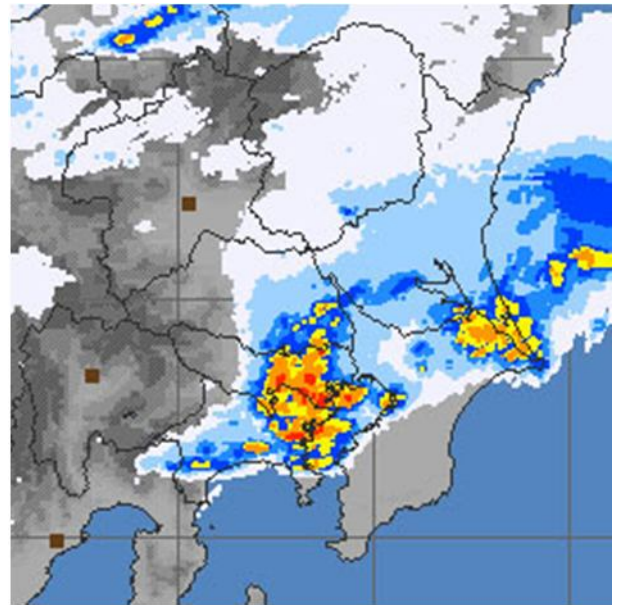
梅雨の末期や盛夏の頃、「今日は大気の状態が不安定です」というセリフを、よく天気予報やニュースで耳にする。地上付近で気温も湿度も高く、強いサーマル(熱気泡)が発生するような日に、上空(3000m以上)に北から寒気が流入したような場合、性質の異なる空気はぶつかって、短時間で優勢な積乱雲を形成する。それが「大気の状態が不安定」というセリフの正体である。今日の午後の東京の気象条件は、まさにその典型的な状態だったと言える。



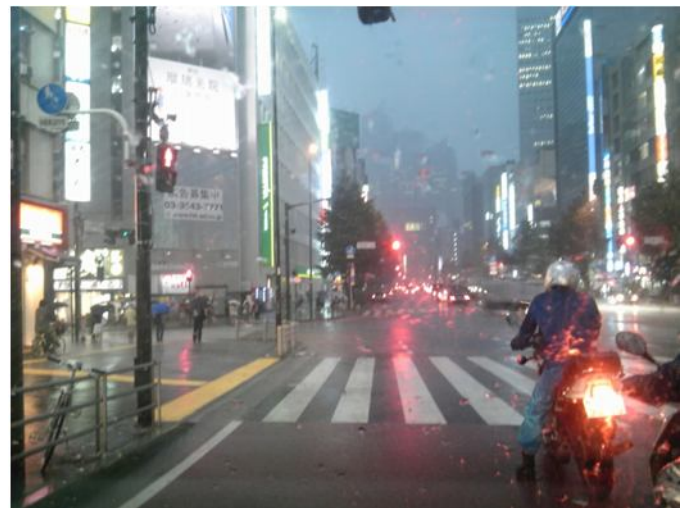
上図は、本日15時の雨量解析である。関東全域に列状に積乱雲が発生し、その一つが東京東北部にも表れている。このころ文京区は激しい雷雨になった。猛烈な雨に加え、電光(稲妻)や雷鳴も観測された。ちょうど下校しようとしていた2年生が、昇降口で足止めされてしまった。怖くて泣きだす子どももいた。



地上付近の熱源と、上空の寒気が居座る限り、大気不安定な状態は続く。東京の雨は一旦おさまって、一時は青空も見えた。しかし、18時を過ぎて雨雲は援軍を集め、再び巨大な積乱雲に発達した。



上図は、18時半の雨量解析である。神奈川県東部から東京23区を完全に覆うほどの、巨大で優勢な積乱雲が見られる。



私はこの頃、用があつて新宿駅近くにいた。写真では雨の程度はわからないが、「この世の終わり」というような降り方だった。傘は全く役に立たない。道路は数分で水路と化した。「積乱雲から雨が降ってきた」・・・というよりは、「積乱雲そのものが地面に落ちてきた」・・・というほうが正しいだろう。